

愛知県半田市（国内 48 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要

令和 7 年 1 月 31 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 基本情報

用途（飼養羽数）：採卵鶏（約 42.5 万羽）

発生家きん舎の構造：ウインドウレス鶏舎

発生家きん舎の飼養形態：ケージ飼い（直立 8 段ケージ 6 列（1 階 4 段、2 階 4 段）、通路 4 本）

2 農場の周辺環境・農場概況

- ① 当該農場は、平野部にある丘陵地に位置しており、1 月 19 日に本病の発生が確認された今シーズン国内 33 例目（愛知県 8 例目）の発生農場が北西方向に隣接していた。なお、33 例目農場の殺処分作業は 23 日に終了していたが、調査時点で、防疫措置自体は継続中であった。
- ② 当該農場の西側約 250m にはため池があり、アオサギ 1 羽を確認した。
- ③ 当該農場は、ウインドウレス鶏舎 4 棟（1 棟 2 室）、堆肥舎、集卵施設兼事務所で構成されていた。鶏舎は農場内通路を挟んで西側と東側に 2 棟ずつ並んでおり、発生鶏舎は、西側 2 棟のうち一番南に位置していた。
- ④

3 通報の経緯・発生時の状況

- ① 農場長によると、発生鶏舎（通報時約 317 日齢）では 6.3 万羽の採卵鶏が飼養されており、通常の死亡羽数は一日当たり約 7 羽程度であったとのこと。
- ② 1 月 30 日午前の見回りの際、鶏舎 1 階の排気口付近の壁側列の下から 3 段目のケージ（1 ケージ 7 羽飼養）で 4 羽がまとまって死亡しているのが確認され、周囲のケージでも死亡鶏が散在して確認されたことから、同日、家畜保健衛生所に通報したとのこと。なお、発生鶏舎では、通報までに合計 10 羽の死亡鶏が確認されたとのこと。
- ③ 調査時、通報のあったケージ列の左右方向で、死亡鶏が複数羽散在して確認された。

4 管理者及び従業員

- ① 当該農場には、農場長を含めて従業員が 15 名おり、このうち 7 名が鶏舎内での飼養管理、1 名が鶏糞処理作業、残り 7 名が集卵作業に従事していたとのこと。
- ② 当該農場は系列農場を有するが、従業員や機材等の共有はないとのこと。

5 農場の飼養衛生管理

- ① 当該農場には通常使用する入口が 2 箇所あり、それぞれの入口には立入禁止看板があり、1 箇所の入口には車両消毒ゲートが設置されていた。
- ② 従業員が区域内に立入る際は、従業員用更衣室で専用作業着への更衣、長靴の交換、手指消毒を実施しているとのこと。また、外部業者（集卵業者、飼料運搬業者等）は、外来者用更衣室において、農場が用意した専用作業着への更衣、長靴交換、手指消毒を実施してから衛生管理区域に入っていたとのこと。
- ③ 従業員が鶏舎に入る際には、鶏舎入口で踏込消毒を行い、鶏舎内に置いている鶏舎内専用の長靴に交換し、手指消毒を実施しているとのこと。

- ④ 発生鶏舎では、鶏舎屋根にあるモニター（六角フェンス設置）から入気しており、天井裏を介して鶏舎の壁側から鶏舎内に空気が取り入れられていた。なお、天井裏には噴霧器が設置されており、一定間隔で入気に対して消毒液が噴霧されていた。
- ⑤ 排気は鶏舎後方（入口と反対側）の換気扇により行われ、鶏舎外の排気口にはダストチャンバーが設置されていた。なお、ダストチャンバーの開口部には防鳥用のフェンスが張られていた。
- ⑥ 鶏卵は、集卵コンベアにより集卵施設に運ばれる。集卵コンベアは地下を通過して集卵施設に入るが、鶏舎開口部には蓋が設置されており、コンベアの地上部分はカバーで覆われていた。
- ⑦ 給与水には、消毒済みの井戸水を使用しているとのこと。
- ⑧ 飼料タンクには蓋が設置されており、閉鎖系ラインで鶏舎内に自動給餌されていた。
- ⑨ 除糞作業は毎日行われており、各鶏舎の飼養管理担当者が除糞ベルトを稼働させて鶏舎外に糞を搬出しているとのこと。鶏舎内の除糞ピット開口部には蓋が設置されていた。その後、鶏糞担当者によって、鶏糞は堆肥舎内で堆肥化され、コンポストで処理された後、製品化されていたとのこと。堆肥舎には防鳥ネットが設置されていたが、調査時、堆肥舎内で複数のハトが存在していた。
- ⑩ 死亡鶏は毎日の健康観察時に回収し、堆肥舎内にある死鳥処理機で粉碎した後、直ちにコンポストに投入していたとのこと。廃棄卵は鶏舎内で除糞ベルトに廃棄していたとのこと。
- ⑪ 各鶏舎の内部は、隔壁により2区画に分けられていたが、隔壁には扉があり行き来が可能であった。区画ごとにオールイン・オールアウトを実施しているとのこと。
- ⑫ 近隣で本病が発生して以降は、従業員を2名増加して、農場内外の消毒の頻度を増やし夜間も家きん舎の入気口を消毒した他、車両の入場台数を少なくするため近隣の公園の駐車場を借りて従業員はハイヤーで乗り合わせて出勤していたとのこと。

6 野鳥・野生動物対策

- ① 農場長によると、近隣の雑木林にカラスのねぐらがあり、農場上空を飛翔しているのを確認しているとのこと。そのため、カラス対策用に鶏舎の屋根の上には反射テープをつけたテグスを張っていたとのこと。
- ② 農場長によると、鶏舎内でネズミを見かけるため、ネズミ対策として粘着シートや殺鼠剤を設置していたとのこと。

（以上）